

自分が「場」を動かす意識の芽生え



国際教養学科 1 年 山口千裕

私たちは、2012年1月23日に「学生が『地域』で学ぶことの意義」というテーマで報告会を行いました。この会では、4月から「地域」に入って活動してきた、福津市インターンシップ、一風堂 CSR インターンシップ、NPO 法人循環生活研究所生活研究所サービスラーニングの3つのグループが合同で活動報告をしました。各チームがこれまでの活動を紹介するプレゼンテーションから始まり、その後、各チームの学生とそれぞれの現場の方が登壇して、パネルディスカッションを行ないました。パネルディスカッションでは、それぞれの現場の方々と学生が対話しつつテーマについて深め、さらに1年間の活動を通しての学び、そして活動の中でぶつかった困難とそれをどう乗り越えたかをチームごとに伝えました。



私たち一風堂 CSR インターンシップ参加生が、この報告会で伝えたこととして「自分がその『場』を動かす一員だ」という意識をもつことの大切さがあります。私たちは、活動をする中で、攻めの姿勢をもって『場』を動かそうとする力の源カンパニーの社員の方々を見てきました。その姿を見て、自分が動き周りを巻き込んでいくことの大切さに気づき、「自分がその『場』を動かす一員だ」という意識が芽生えました。そして、自分がその「場」にいる一員であることを意識して、「自分は今何をすべきか」を常に考えて動くことを心がけるようになりました。

社会に出ると、自分のいる場をどう創っていくかが常に求められます。社会に出る前の大学生のうちに、「『場』を自分自身で動かしていく力」を身に付けておく必要があると1年間の活動を通して痛感しました。